

授業力向上推進プロジェクト委員会

所属： 大垣北高等学校

氏名： 杉崎 壮芽

1 個人テーマ： 知識の理解の質を高めるための指導方法及びパフォーマンス評価方法の研究

2 テーマ設定の理由

今年度は3年生の担任をしている。大学進学を考える生徒が多い学校では、受験に近づくほど、演習によって扱う題材の難易度が増し、パフォーマンス活動を行うことが難しくなる傾向がある。そのような状況でも、扱う題材を深く理解し、受験に近い3年生でも実施できるパフォーマンス評価を検討したいと考え、このテーマの設定に至った。

3 研究内容（取組内容）

パフォーマンス評価の方法として、Writing 活動を選択した。その理由は、大学入試において自由英作文を課す大学が数多く存在し、受験を見据えて意欲的に取り組む生徒が多いと判断したからである。Speaking は評価としては使用しなかったが、Writing 活動を行うための準備のために授業の中に組み込んだ。

毎年本校では、教科書での学習を終えた後、補助教材を用いて過去に出題された大学の問題を演習している。問題を解いて解説するだけの授業に留めず、扱った題材について深く学んでほしいという思いから、以下の形式で授業を行った。

- ①補助教材を用いた入試問題の演習
- ②本文解説、問題解説
- ③理解の質を高めるための質問、発問
- ④要約問題、Retelling Activity
- ⑤題材に関わる Writing 活動
- ⑥Writing 活動の評価とその共有

②の段階で、⑤で行う Writing 活動の問題を提示し、Writing が単元の最終目標であることを明示した上で指導をした。資料1は9月末、資料2は11月末の考査直前の授業で実施した Writing Sheet である。

4 成果

資料1は問題文に目的・場面・状況が設定されておらず、生徒の解答も出題者の意図に沿ったものがないものが複数見受けられた。同時に、採点にもかなりの時間を要した。これらを踏まえて資料2では、問題文に目的・場面・状況を設定し、質問を分かりやすい形式に変えた。考える点が明確になり、本文の内容を深く考え直しながら、自分の考えをまとめやすくなった。そして、字数を80-100words から40-60wordsに変更し、【Length/Word Number】以外の最高点を3点から2点に変更した。これにより、生徒が解答しやすい状態になったため、資料2を実施した際はC評価の生徒がいなくなった。これは英語が苦手な生徒にとっても良い結果となった。加えて、教員の採点時間も大幅に減少し、持続可能な形式となった。

5 課題

大学入試の出題形式の大半がReadingを占める以上、入試が近づけば近づくほどパフォーマンス活動を授業で扱うことが難しくなる。しかし、インプットしたことを自分なりにまとめてアウトプットする力は学習の定着のために有効である。このことを生徒に理解させる声かけを常日頃から行っていく努力が必要だと考える。